

(表紙インタビューつづき)

就職は、エントリーシートの段階で、性別欄(女性)と実際の写真(男性)との違いで苦悩しました。就職して男性として馴染むと、今度は女性であった過去が知られる事への恐れがありました。



ハレルワの活動を通じて、メディア等に実名で顔写真

を出すようになり、メディアを通じて自分の事を知った仕事の関係者から「私と間々田さんの関係は何も変わらないよね、今までどおりだよ」と言ってもらえたことが嬉しく印象に残っています。

●ひとりで悩んでいる方にひとこと  
一人だと思わないでほしい、周囲に理解してくれる人は必ずいます。あきらめないで！ぜひ、ハレルワの交流会に来てほしいです。(交流会のご案内はオモテ面をご覧ください)

(インタビューを終えて)

日本でも約8%の人がLGBTという民間の調査データ\*があります。これは約13人に1人がLGBTということであり、日本人の中でAB型の人が占める割合と変わらないのです。

まずは、誰もが居心地のいい社会づくりが必要ということ。私たち一人ひとりの「みんなちがって、みんないい」、「みんなとちがって、それがいい」という考え方が積み重なっていくことで、誰もが住みやすい社会になるのではないのでしょうか。

(\*出典：平成28年度LGBT総合研究所調べ)

## セミナー報告

### とらいあんぐるんセミナー「文学と方言からみる男女共同参画」

男女共同参画の視点から社会や生き方を見つめ直すをテーマに、文学や群馬の方言を通じて、男女の生き方の違いや現代との違いと共通点を発見するセミナーを全3回開催しました。(参加者 延べ 158名)

平成30年9月29日(土)  
第1回『源氏物語に学ぶ男女共同参画～式部の思いこそ原点』  
講師：黒木睦子さん  
(源氏物語研究「源リウ会」代表)



10月13日(土)  
第2回『西鶴文学の名場面から見た男女共同参画～江戸時代の男と女の世界』  
講師：安保博史さん  
(群馬県立女子大学 教授)



10月27日(土)  
第3回『群馬の方言、その魅力』  
講師：篠木れい子さん  
(群馬県立女子大学 名誉教授)



◎アンケートから  
・「男女平等、家族の幸福について改めて考える機会になったような気がする」  
・「文学から人の本質を知ることが、男女共同参画を進めるヒントになると感じました」  
・「言葉自体の“力”“魅力”について考えるよい機会になった」

平成30年10月16日(火) 高崎市と共同開催  
『人間関係がラクになるさわやかな気持ちの伝え方～アサーション・トレーニング～』

アサーションは、「自分の気持ちを伝えながら、相手の声に耳を傾ける」技術です。ワークを通して、「自分を大切にすることは、相手を大切にすること」に気づくことができたセミナーでした。

(会場：高崎市市民活動センター ソシアス、参加者 44人)  
講師：宇部弘子さん  
(日本体育大学児童スポーツ教育学部 准教授)



◎アンケートから  
・「自分を客観的に見つめることができた」  
・「わかりやすく生活にいかせそう」



平成30年11月10日(土) 渋川市と共同開催  
とらいあんぐるん LGBT 講演会 (渋川市会場)  
『～いろいろな性～ LGBT について』

セクシュアルマイノリティ支援団体ハレルワのメンバーを招き、渋川市北橋公民館で開催し、LGBTについて理解を深める講演会となりました。  
(会場：北橋公民館、参加者 25人)  
講師：ハレルワメンバー

◎アンケートから  
・「私は自分らしくあっていいんだ」という言葉に出会えた」  
・「当事者の生の声を聞けた」



## セミナー報告

### 女子高校生 理工系チャレンジ支援セミナー Part 2、Part 3 『リコ・チャレ』

リコチャレは、女性の進出が少ない理工系分野の魅力女子高生に伝えるため、県内企業、群馬大学理工学部及び県教育委員会と連携して、毎年実施しています。

今年は、県立高崎女子高校の生徒(及び保護者)を対象に①企業訪問(No.51で報告済み)、②講演会、③講義と実験を行いました。

●平成30年9月28日(金)  
②生徒・保護者向け講演会「理工系女子の活躍最前線！」  
(生徒280人、保護者15人計295人)  
講師：板橋英之さん(群馬大学大学院理工学府 教授)



平成30年9月15日(土) みどり市と共同開催  
とらいあんぐるん防災基礎セミナー

「自分×大切な人←いのちを守る」  
(会場：笠懸公民館、参加者 37人)  
講師：赤羽潤子さん(日本防災士会 群馬県支部 副支部長)  
『自分たちの地域は自分たちで守る』  
講師：小林良江さん(群馬県立女子大学 学長)  
『未来につなぐ防災』～男女共同参画の視点から



## まめ知識 「リコ・チャレ」を実施するワケ

2015年に実施された「OECD 生徒の学習到達度調査」(15歳児対象)によると、科学的リテラシー(注)のレベル8段階のうち、上位2段階に属する(科学的能力の高い)生徒の割合は、日本の男子は18%、女子は13%です。上位2段階に占める「女子の割合」は41.9%(4割超)になります。

この比率が将来の進路に反映されれば、理系学部の女子学生の割合も4割超になるはずですが、右グラフのとおり、現実には、理学部は3割未満、工学部では2割未満と、4割よりもかなり低くなっています。この極端な低さは、他国には見られない傾向です。

高い科学的能力があっても、日本では理工系に進む女子が少ない要因として①本人や周囲の先入観(女子は理工系に向かない、理工系女子は就職が難しい)②ロールモデルが見えにくいこと③理工系学部のイメージがつかみにくいことなどが考えられます。群馬県では①～③を軽減するため、女子高校生を対象

●平成30年11月30日(金)  
③講義と実験「渡良瀬の銅を調べよう！」(生徒22人)  
講師：板橋英之さん(群馬大学大学院理工学府 教授)



参加者募集

パパは魔法使い!?  
ミニ講演会と  
バルーンアート教室

バルーンとミニポップ  
はお持ち帰りOK!

【日時】平成31年2月16日(土)  
午後1:00～3:00

【講師】吉田大樹さん(NPO法人グリーンパパプロジェクト代表)

【対象】3歳から小学3年生までの  
お子さんと男性保護者

【定員】20家族(先着順)【費用】無料

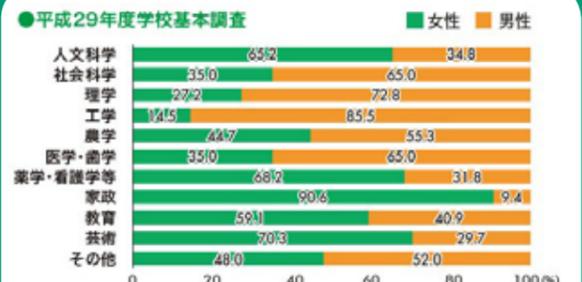
【場所】前橋市総合福祉会館(前橋市日吉町2-17-10)

・申込方法：電話、FAX、メールにより

①男性保護者の氏名、電話番号②お子さんの氏名、年齢をお知らせください。

・申込先：ぐんま男女共同参画センターまで。  
主催：前橋市・群馬県ぐんま男女共同参画センター

## 「専攻分野別に見た学生(学部)の男女割合」



に理工系チャレンジ支援セミナー(リコ・チャレ)を実施しています。

(注) 思慮深い市民として、科学的な考えを持ち、科学に関する諸問題に関する能力

※センター通信No.51と本紙でリコ・チャレの実施状況をお知らせしています。